

会 議 録（第 1 回総合教育会議）

会議の名称	令和 5 年度 第 1 回 飯能市総合教育会議			
開催日時	令和 6 年 1 月 2 3 日（火） 開会 午後 1 時 2 9 分 閉会 午後 3 時 0 0 分			
開催場所	飯能市役所 本庁舎別館 会議室 3			
議長氏名	市長 新井 重治			
出席委員	市長	新井 重治	教育長	中村 力
	委員 (教育長職務代理者)	新野 豊次	委員	五江渕 幸子
	委員	宮内 保行	委員	大澤 修
説明者の職氏名	教育部参事 兼学校教育課長	中井 健一	学校教育課副参事 兼教育センター所長	長岡 剛
関係者の職氏名	企画総務部長	大野 悟	教育部長	吉田 昌弘
	教育総務課長	大坂 美智子	生涯学習課長	武藤 郁夫
	公民館管理担当課長	山岸 紳樹	スポーツ課長	犬竹 章
	図書館長	紫藤 悦子	博物館長	尾崎 泰弘
会議次第	1 開会 2 あいさつ 市長 教育長 3 協議事項 (1) 飯能市における不登校対策について (2) 部活動の地域移行について 4 その他 5 閉会			
配付資料	資料 1 不登校対策について 資料 2 部活動の地域移行について			
傍聴人	なし			
事務局職員職氏名	企画総務部長	大野 悟	企画課長	利根川 忠宏
	企画課主幹	島田 智明	企画課主任	越智 小百合
	企画課主事	木寄 彩花		

発 言 者	発 言 内 容
	<p style="text-align: right;">開始 午後1時29分</p> <p>1 開会 2 あいさつ (※市長あいさつ) (※教育長あいさつ) 3 協議事項</p>
企画総務部長	<p>それでは、次第に従いまして「3 協議事項」に入らせていただきたいと存じます。飯能市総合教育会議設置要綱第4条の規定に基づき、新井市長に議長として議事の進行をお願いします。</p>
市長	<p>これより議長を務めさせていただきます。 市長と、教育委員会を代表して、教育委員、教育長と意見交換をし、情報共有、意思疎通を十分に図るための会議でございます。 協議事項に掲げたことにつきまして、皆様のお考えや御提言などを頂きますよう、よろしくお願ひいたします。 それでは、「(1) 飯能市における不登校対策について」を議題といたします。 事務局から説明をお願いします。</p>
教育部参事兼 学校教育課長	<p>(※資料1により、学校教育課から説明)</p>
市長	<p>事務局からの説明は以上です。 委員の皆様から御意見を願ひいたします。</p>
委員	<p>国が令和5年10月にまとめた「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」について、内容や文部科学大臣のメッセージがどのようなものなのか、文部科学省のホームページを見ました。盛山文部科学大臣が大変わかりやすく話をされていました。 文部科学省が県に指示をして、その後県が市町村に指示をして、対策を進めていくのだと思いますが、この「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」が出る前から、飯能市は児童生徒の居場所づくりの大切さを理解し、対策に取り組み、国や県の平均より不登校の児童生徒数は多くても、改善が見られているのではないかと感じています。</p>

<p>委員</p>	<p>委員から、飯能市の取組について、適切ではないかとのお話がありました。不登校になってしまった児童生徒に対して居場所を確保したり、支援員配置の予算をつけていただいたことで、精神的にも物理的にも居場所をつくることができているのではないかと思います。</p> <p>スペシャルサポートルームの設置には、お金と場所が必要で、お金と労力が大変かかると思います。また、学校が教職員の意識を引き上げ、組織集団としての力を強めていかないと、スペシャルサポートルームは認知されず、運営もスムーズにいかないのではないかと思います。成果が上がってきている学校は、教職員の態勢が徐々に整ってきているのだと思います。</p> <p>先日、市役所のとある課にお願い事があり、「嫌がられるかな」と思いながら行ったのですが、とても親切に対応していただきました。前回お願いに行った時は、冷たい対応をされたと記憶していたのですが、今回はよく話を聞いてくださって、「できる限り対応してみますが、もしかしたら意に添えないかもしれません。その時はご連絡しますね。」と、本当にありがたい対応をしていただいたのです。それによって、市職員の方への感じ方が一気に変わって、「何かあった時には相談をさせていただいて、解決に向けて一緒に考えていただけるんだな。」という認識になりました。</p> <p>これは学校も同じだと思うのです。不登校になってしまった子どもやその保護者に対して、教職員が気持ちに寄り添う対応をすることで、前に進む力になるのではないかと思います。「大事にされたい」と思う気持ちは誰にでもあるものですから、それに寄り添う生徒指導や教育相談の体制が今後も大事なのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>不登校対策に「これをやれば良い」というものはないと思います。国も指針を出していますが、「これをやれば大丈夫です」ということではなく、「こういうことを考えてやってください」ということなのだと思います。</p> <p>飯能市も今実施している取組によって、少なからず結果が出ていると感じています。不登校対策に、即効性のある技のようなものではなく、すぐに結果が出るものではないので、先生や保護者、地域の方が協力し、こつこつ時間をかけて取組を継続していけば良いのではないのでしょうか。</p> <p>また、子どもを信じるということも大切です。子どもを信じて取り組まなければ、何事も中途半端になってしまうのではない</p>

委員	<p>かと思えます。</p> <p>先日、入間地区教育委員会連合会の研修で、茨城県の学校を見学させていただきました。その時私が強く思ったのは、その学校の子どもたちよりも飯能市の子どもたちの方が素直にあいさつができるということでした。見学した学校の子は、もじもじしながら「おはようございます…」と小さな声であいさつをしていたのですが、飯能市の小中学生は「おはようございます！」と大きな声であいさつができます。飯能市の小中学生は、本来はそういう素直な子どもたちですから、何かのきっかけで病んでしまい、大人が対策を講じてすぐに解決はしなくても、信じて対策を継続していくことが大事ではないかと思えます。</p> <p>飯能市では、スペシャルサポートルームなど成果が出てきていることもあるので、委員がおっしゃっていたように対策にはお金がかかるかもしれませんが、是非継続して1人でも2人でも成果を出していただければありがたいと思えます。</p> <p>不登校対策というのは、非常に難しいものだと思います。委員がおっしゃっていたように、1足す1が2になるような簡単なことではないと、私もいつも考えております。</p> <p>岡山型スタンダードについてですが、不登校の捉え方がいろいろとある中で、この捉え方は非常に良いと思いました。本市もこの捉え方に基づき取り組んでいるということで、子どもたちの実態把握という面では良いと思えますので、是非これからも継続していただければと思えます。</p> <p>不登校児童生徒の人数についてですが、以前読んだ新聞記事によりますと、小学校で不登校が一番多いのは1年生で、1年生の保護者がコロナで不安になり、小学校入学前に子どもの適応力を上げなければとあれこれ取り組んだことで、子どもがプレッシャーを感じて学校に行きたくなくなる、ということがあそうです。この記事を読んで、不登校にはコロナの影響が強いと思うとともに、保護者も含めてどう対応していくかが大事だと思いました。</p> <p>学びの改革の中で、しっかり取り組んでいる学校については、不登校の子どもの数も減っていると聞きました。そのことから、肝心なのは学級経営だと考えます。学級経営がしっかりできていれば、いろいろな面で効果が出てくると思えます。</p> <p>様々な研修をされているとのことでしたが、大事なものは、受けた研修の内容がどれだけ教職員に身に付いていて、研修で学んだことが子どもの指導にどれだけ活かしているか、ということ</p>
----	---

<p>委員</p>	<p>です。委員もおっしゃっていましたが、教職員の力を向上させなければ、なかなか成果は上がらないのではないかと考えます。是非、学校が教職員の能力を確かめながら、様々な情報も得ながら、対策を進めていただきたいと思います。</p> <p>20年近く前の話になりますが、文科省と県に相談して予算をつけてもらい、不登校対策に取り組んだことがあります。例えば、年間30日以上欠席している不登校の子が5人いたとします。この5人の中には、年間50日欠席している子や、年間80日欠席している子も含まれています。この、より長期間の欠席者をどうにか減らせないか、という視点を持って対策に取り組んだのです。年間30日以上欠席している子の中には、どれくらいの期間休んでいる子がいるのか、また、より長期間の欠席者をどう減らしていくか、そういった視点を持って対策を講じてみるのも1つの方法なのかなと思いました。</p> <p>いろいろな方法があると思いますので、是非、実施と検証を繰り返して、進めていただきたいと思います。</p> <p>また、大きな学校で不登校になった子が、小さな学校に移ったことで改善した、ということや、小規模特認校において不登校対策の成果がありましたら、今後紹介していただき、対策に活かしていただければと思います。</p> <p>委員が学級経営の大切さについてお話をされましたが、私もまさにそのとおりだと思います。学級経営力を高めていくことは、学びの改革の大本になっていると思います。「学びの改革は何からスタートするのか」ということをもう一度徹底していただき、教育委員会からも、これまで以上に先生方に伝えていく必要があるのではないかと考えます。</p> <p>若い先生が「自分の学級に不登校生徒がいるのは自分のせいだ」と思ってしまったり、「困ったことがあってもやり過ごしてしまえばいい」という雰囲気が学校にあったとしたら、それは間違いで、「不登校は担任に問題があるのではない」、「問題があったら抱え込まずに早めに学校に相談する」、「学校の子どもは学校職員みんなで見ると」という意識を持ってほしいと思います。</p> <p>先生も子どもも「大事にされたい」という気持ちはみんな持っています。その気持ちを尊重することで改善できることもたくさんあると思いますので、それを踏まえて対策を進めていただければと思います。</p> <p>不登校の子が小規模特認校に行ったら改善するか、というお話については、小規模特認校を作ったそもそもの理念は何だっ</p>
-----------	--

<p>委員</p>	<p>たのかを考え、慎重に進めていく必要があると思います。</p> <p>不登校対策は1つ1つが重い問題ですから、その負担を小規模特認校に積極的に持っていくというのは、どうなのかなと思いました。</p> <p>もし、大人数だと適応しづらい子やその親から相談があったり、小規模特認校に移ることで改善する部分があるならば、選択肢の1つとして考えても良いのかな、という意味でお話をさせていただきました。いろいろな方法があると思いますので、それが全てということではありません。</p> <p>それから、学校に行った時に休み時間の様子を見ていますと、ずっとパソコン作業をしている管理職が見受けられますが、あまりよろしくないのではないのでしょうか。今、現場は若い先生が増えています。先生方は何か悩み事があった時、管理職に相談できるのは休み時間くらいしかないのです。若い先生が1人で抱え込んでしまい、どうにもならない状態になってしまうことも起こりえますから、校長が中心となって、先生方がいつでも相談できる体制や雰囲気を作らないといけないと思います。</p> <p>保護者対応にも同じことが言えます。保護者が職員室や校長室に入りやすい、相談しやすい体制をどう作るかを考えることが大切です。</p> <p>教育センターや市役所の窓口でも同じです。「よく来てくれましたね」と笑顔で迎え、相談しやすい雰囲気を作ること、これは大事なことだと思います。</p>
<p>教育部参事兼 学校教育課長</p>	<p>大変参考になる御意見を多数頂き、ありがとうございました。委員がおっしゃっていた、90日以上欠席者など「30日以上欠席者」の中での分類についても、考えていかなければならないという認識は持っております。おかげさまで、90日以上欠席している児童生徒の数は増加しておらず、ここ2～3年は減少傾向にありますので、確認をしながら引き続き支援をしていきたいと思っております。</p> <p>管理職と教職員の関係づくりにつきましても、非常に重要なことだと捉えておりますし、先生方が笑顔で子どもたちを迎えられる体制づくり、学級経営や居場所づくりにつきましても、大事なことだと改めて考えさせていただきました。今後もしっかり対応していきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p>

<p>教育長</p>	<p>ほかに御意見はございますか。</p> <p>不登校対策では、学校がやるべきことをし、それを教育委員会が補佐していくことが大事なのだと感じています。学校でやるべきことは、学びの改革を中心とした、不登校の子を出さない未然防止策です。「不登校の子を出さない」というのは、学校に来させるだけではなく、学校以外で学びの場を作るなど、多様化した教育の中でのお話です。その対策を講じるために、教育委員会では、先生方に特別支援教育の力をつけてもらうための研修を毎年実施しています。委員がおっしゃっていましたが、なかなか浸透していかないという課題は確かにあります。ですから、繰り返し研修を行い、私も校長会議の度に不登校対策について投げかけ続けて、やっとこれだけスペシャルサポートルームが増えてくれたと感じております。教育委員会は、とにかく諦めずに取り組んでいくことが大事だと思いました。</p> <p>また、教育委員会は、人的資源や物的資源に限られる中で、岡山型スタンダードでの状態5、6の子たちを社会的に自立させるために、「保護者の会」の実施やオルタナティブ教育の検討など、更なる協働や新たな取組を実施していかなければなりません。</p> <p>先日、埼玉県都市教育長協議会の視察研修で、さいたま市のメタバースを見てきました。バーチャルの教室には、アバターの子どもたちや先生がいて、勉強をしていました。さいたま市の話によると、不登校の子には昼夜が逆転している子が多いので、生活リズムの改善はできるそうです。しかし、学力向上となると、学びの多様化学校、いわゆる不登校特例校が必要になるのではないかと、このことでした。不登校の子どもたちの学力を向上させるには、居場所づくりだけではなく、しっかり作られた教育課程も必要なようです。</p> <p>そして、重要なのは、自治体間格差を生まないことです。この自治体では不登校対策が講じられていないから解決できないが、この自治体に行けば不登校が解決できる、ということにならないように、教育委員会は努力しなければなりません。この課題についても、教育委員の皆様は御意見を頂きながら、考えていかなければならないと思います。</p> <p>本日頂いた御意見も参考にしながら、今後とも取り組んでいきたいと思っております。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p>

<p>市長</p>	<p>ほかに御意見はございますか。 (なしの声あり)</p> <p>不登校児童生徒の数は、年々増加し、憂慮すべき状況として私も認識しています。不登校はどの子どもにも起こり得ることであり、不登校の未然防止、早期発見、早期対応、そして不登校の子どもへの継続的な支援など、各段階での取組を、学校、家庭、地域が連携をしていく必要があると考えております。飯能市でも、昨年11月から、総合福祉センターの中に、子どもの居場所として「ゆあスペース」を設置するなど、子育て支援の観点からの取組も開始しています。</p> <p>教育委員会、市長部局が、今後も連携を図りながら取り組んでいくことが大変重要です。情報共有などを密にして、進めていければと思いますので、今後もよろしくお願いします。</p> <p>それでは、「(1) 飯能市における不登校対策について」は、以上とさせていただきます。</p>
<p>市長</p>	<p>次に、「(2) 部活動の地域移行について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
<p>学校教育課副参事兼教育センター所長</p>	<p>(※資料2により、学校教育課から説明)</p>
<p>市長</p>	<p>事務局からの説明は以上です。 委員の皆様から御意見、御提言をお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>先日、飯能第一中学校で、合同練習にエルフェンの方が来て指導しているところを見せていただきました。さすがプロの方は教え方がお上手で、生徒たちの動きを見ながら適切に指導されていました。私も高校のサッカー部の顧問をしておりましたが、指導の至らなさを痛感するほどでした。</p> <p>私が顧問をしていた頃は、生徒の数も部の数も大変多かったのですが、今は合同でないと活動ができず、練習も小規模である現状を思い知らされました。私立のように生徒を集めることはできませんし、生徒が多い地域でもない公立の学校で部活動を存続していくことは難しいと思いました。</p> <p>私が顧問をしていた時、指導熱心な保護者が、私が不在の時に生徒の面倒を見てくれたことがありました。とても助かったの</p>

委員	<p>ですが、その方は教員ではなかったので、指導に当たっての考え方が根本的に違いました。参加費用を負担してクラブチームなどで活動をする、学校の代表選手として活動するのであれば資格を持った指導者が学校に来る、というように、適切な指導者がいて生徒がしっかり指導を受けられる環境が必要だと思いません。</p> <p>若者に対する日本のスポーツ指導のあり方、組織のあり方は、海外に比べてとても遅れているという認識は、昔から持っておりました。ここでようやく部活動のあり方が問題として取り上げられ、若者のスポーツのあり方が根本的に変わる過渡期、今はその段階に来ているのだと思います。</p> <p>先生方に、放課後や休日も、限りなくボランティアに近い形で部活動の指導を任せることは、学校の働き方改革の観点からも望ましくないのではないのでしょうか。</p> <p>埼玉県でも方針を示しているようですが、部活動の地域移行は、なかなか難しい取組だと感じます。</p> <p>飯能市で実証事業を実施できたのは本当に素晴らしいことで、いずれはやらなければならないことを、県と一緒にいち早くスタートできたことは、大きな成果だと思います。エルフェンの指導を見せていただきましたが、子どもたちが生き生きしていて良かったです。このようにして、先への道筋を立てるということは、子どもたちのために大切なことなのだと確認できました。</p> <p>他市を見るとときりがありますが、関連機関とより連携して人材を確保できている恵まれた市町村もあるようです。エルフェンとの実証事業も、実施までとても大変だったと思いますが、今後、人材や受け皿の確保をはじめとした様々な課題を解決するには、大変な労力がかかると思います。</p> <p>退職して時間はできても、体力がなくなってしまう、部活動指導に協力したくてもできず、もどかしい思いをしている地域の方はたくさんいると思います。ですから、そういう思いを持っている方と、機動力がある方とをうまく結びつけて、両輪で進めていけたら良いのではないのでしょうか。</p> <p>中学校の部活の時間というのは、際限があるようでないものであり、教育委員会が働き方改革を進めていても、学校ではなかなか徹底されず、顧問の先生次第で動いてしまっている部分もあると思います。しかし、やるからには高みを目指したいし、「うまくなりたい」「勝ちたい」という気持ちが湧いてくるのは当然のことで、そこを今後どう調整していくのかということも大き</p>
----	--

委員	<p>な課題だと思います。</p> <p>大谷選手が、1つ目標を立て、「それを達成するにはこういうトレーニングが必要だ」ときちんとスケジュールを組んで活動しているように、これから5年間かけて合理的な取組を模索し確立していくことが必要だと思います。</p> <p>過渡期にある子どもたちにとっては、不安要素が多いと思いますので、具体的な方針を示し、子どもたちの活動を妨げないことも大切です。</p> <p>私は、「例えば1年間200日学校があるとして、顧問の先生が1日2時間部活動の指導をしたら、1年間では400時間になる。この時間を全て教材研究に充てられたらどうなるだろう。」などと考えてしまうのです。土曜日や日曜日だけでも、部活動の地域移行が進み、それによって学校現場も変わっていくことができればいいと思います。</p> <p>私も、部活動の地域移行には賛成です。ただ、中学校が部活動の位置付けをどうしているのか、というところが気になります。私が学生の頃は勝つための部活動でしたので、朝練をして、午後もずっと練習をして、土日も休みなく練習をしていましたが、それだけでは、楽しさがなくなるという問題も出てきます。ですから、クラブ活動に対しては、勝つことを目指すだけではどうなのかと、私は以前から思っています。</p> <p>地域の方に指導を頼むに当たっては、先生方の負担が減るという点は良いと思うのですが、指導の仕方が学校の教育方針と合っていないと、子どもたちは混乱してしまうのではないのでしょうか。</p> <p>私はスポーツ少年団のサッカーをやっていたのですが、スポ少にはサッカーをしたい子どもたちが来ています。エルフェンの選手に指導してもらった時、楽しく練習している子どもたちばかりだったのは、そこにはサッカーをしたい子が来ていたからなのです。しかし、学校の部活動となると、意味合いが少し違ってくるのではないかと思います。</p> <p>また、外部の指導者が学校の教育方針と合わない場合にはどうするのか、ということを考える必要があると思います。例えば、指導者に、飯能市の教育方針や飯能市での部活動の位置付けについての研修を受けていただき、指導に当たって勉強をした上で対応していただけたら、先生方と信頼し合うことができ、うまく連携がとれた練習をすることができると思います。</p> <p>私の知り合いに駿河台大学陸上部の先生がいて、「部活動</p>
----	--

<p>委員</p>	<p>指導にすぐ行くよ」と言ってくれるのですが、中学校に合うのかどうか心配しています。</p> <p>地域移行自体はとても良いことだと思いますが、地域の指導者も先生も学校も、お互い信用して、任せ合える形であってほしいと思います。学校の先生が、指導者に「その仕方は良くないな」と思うような状態は避けたいのです。</p> <p>まだ始まったばかりの取組なので、具体的なことは進めながらになると思いますが、学校の方針を無視しての地域移行は、方向性が違ってしまうと思いますので、バランスをとりながら進めていただけると良いと思います。</p> <p>令和4年4月だったと思うのですが、部活動の地域移行のことが新聞に大きく掲載されていました。新聞の見出しで印象に残っているのは「部活のあり方 歴史的転換」という言葉で、確かにそうだなと思いました。</p> <p>新聞には、2023年から周知期間3年間の後実施する、と書いてありました。それを読んだ時、「これは難しいだろうな」というのが率直な感想でした。その理由は、これまで部活動は、教育の一環とされながらも、教育課程の活動としては認められておらず、教員の熱意と努力、いわば先生方の超過勤務で成り立っており、それをすぐに変えることは容易ではないと思うからです。</p> <p>また、1970年代にも「地域移行」という言葉は出ていましたが、当時は失敗に終わっています。その要因は、受け皿となるスポーツ団体が少なかったこと、財源が確保できなかったことでした。根本には、外国と日本のスポーツの違いが関係していると思います。日本のスポーツは、学校での活動からスタートをしていますが、ドイツやイギリスでは、地域での活動をスタートとしています。地域でのスポーツ活動の土台がない日本で、「さあ地域移行をしてください」と言っても、無理があるのです。ですから、このような状況で今後どうしていくのか、課題は多いと思っています。</p> <p>他市の例を見ますと、令和4年度に白岡市が地域移行に取り組んでいます。白岡市では、4校中22の部活のうち10くらいが移行したようです。その中で課題も出たようで、責任の所在や金銭的負担はどうなるのか、先生の負担軽減に繋がっていない、といったことがあったようです。</p> <p>白岡市では1,500円くらいの負担で実施したそうですが、今後は4,000～5,000円になるだろうとのことでした。</p> <p>部活を全部移行している埼玉大学附属中学校長の知り合いに</p>
-----------	--

	<p>話を聞いてみたところ、負担額は7,000～8,000円だそうです。</p> <p>受益者負担の問題は今後出てくると思いますので、どうなるのか気になるところです。</p> <p>それから、負担を軽減する方法のひとつとして考えられるのは、全国中学校大会のスリム化です。こういった方法も必要になってくると思います。</p> <p>市の取組に協力してくれる企業や組織はあるのか、ということも大きな問題だと思います。エルフェンとの実証事業を基に、今後どうしていくのかを地道に考えていく必要があると思います。</p> <p>ホッケーは市全体で取り組んでおりますから、他のスポーツもホッケーと同じようにできたら良いですが、全てを同じようにするのは難しいので、できるものから少しずつやっていけば良いと思います。</p> <p>先生の中には、「部活動の指導をしたい」という方と、「家庭を大事にしたいので部活動の指導はできない」という方がいると思います。部活動指導をする先生としない先生がいることで、学校内や保護者からの評価に差が出てしまうことがないようにするのも、課題の1つだと思います。部活動の指導を熱心に取り組む先生は、学校のリーダー的存在になり、評価されることが多いです。子どもたちによく寄り添い一生懸命取り組んでいるのに目立たず評価されないなど、部活動指導をしていないために不利益を被る先生が出てくるのではないかと、私はその点も心配しています。</p> <p>昭和50年代、スポーツ少年団はそれまで地域の取組でしたが、そこに学校が加わったところ、子どもたちは地域ではなく学校に行くようになってしまい、地域と学校の関係が悪くなったことがありました。その後、「スポーツ少年団は地域の活動だろう」と学校の手から離れ、地域での活動に戻りました。こういったことから、将来的には部活動も地域に移行していく方向で、少しずつ進めていくことになるのかなと思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ほかに御意見はございますか。</p>
教育長	<p>令和8年からは地域移行をスタートしなければならないのが現実です。地域移行の土壌を飯能市で作っておかないと、「飯能市に行く」と部活動の指導をやることになる」と、飯能市に先生が来てくれません。令和4年度に教育委員会で実施したアンケート</p>

	<p>トがあるのですが、市内中学校の先生の8割が「土日は移行することに賛成」と回答しています。地域移行を進めなければならないのは、現実としてありますので、考えている余裕はありません。</p> <p>今年度は検討委員会を開催できたのは2回だったのですが、飯能市では「やる」という方向性を決めて、とにかく土壌作りをしていかなければなりません。兼務してくださる先生は何人くらいいるのか、兼務教員がない部活動にはどんな部活があるのか、そのくらいは整理しておかないと、来年度になっても全くスタートできないという恐れもあります。</p> <p>受益者負担の問題はどうしても出てくるのですが、委員もおっしゃっていたように、部活動指導をやる先生とやらない先生がいた場合に、例えば、やる先生は受益者負担の費用から手当をもらい、やらない先生はもらわない、というような差がないと、不公平感が出てくる可能性は十分に考えられます。</p> <p>これまで部活動手当を出していたのは県ですから、地域移行を進める今後は、当然手当は出なくなるでしょう。県から手当が出なくなると、部活動指導をする先生は別のどこかから手当をもらわないと、ボランティアになってしまいます。</p> <p>昔は、部活動指導で実績がある先生の影響力が強かったですが、今はそういう時代ではなくなっています。校長先生方に常にお願ひしていますが、今の時代では、授業で勝負できる先生でないと生徒はついていきません。教育委員会も、今の時代に沿った取組をしていかなければならないと思います。</p>
市長	<p>ありがとうございました。 ほかに御意見はございますか。 (なしの声あり)</p>
市長	<p>部活動の地域移行につきまして、本日は多くの意見を頂きまして、ありがとうございました。より良い方法を検討していきたいと考えておりますので、今後どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは、「(2) 部活動の地域移行について」は、以上とさせていただきます。</p>
市長	<p>それでは、協議事項は全て終了しましたので、議長の任を解かせていただきます。</p> <p>御協力いただき、ありがとうございました。</p>

企画総務部長	<p>新井市長、ありがとうございました。 それでは、次第の「5 その他」でございます。 事務局からはございませんが、委員の皆様から何かございますか。</p>
委員	<p>飯能第一小学校の新しい校舎のプランが着々と進んで、とても楽しみにしているところです。 そのプランに入っているのかわかりませんが、複合施設ということもありますし、小学校のトイレに多目的トイレを是非設置していただきたいです。LGBTQの対応にも、多目的トイレは必要なものだと思います。各学校に整備していく時代になりつつあると思いますので、今後改修工事を行う際にも考慮していただきたいです。</p>
企画総務部長	<p>貴重な御意見ありがとうございました。 そのことにつきましては、協議会や作業部会、検討委員会に共有させていただきます。ありがとうございます。 ほかに委員の皆様から御意見はございますか。 （「なし」の声あり）</p> <p>それでは、本日の会議は以上で閉会とさせていただきます。 御協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">終了 午後3時00分</p>

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 6 年 2 月 9 日

市長の署名 新井重治

教育長の署名 中村力